

表町商店街データサイエンスラボ（連携先：岡山市表町商店街）

ラボの課題

表町商店街について、様々な観点から調査を実施し、商店街の経営と将来に資する情報を集めました。本年度は12名の学生が3つの班を構成し、春学期の現地見学を経て、秋学期に各々の調査を実施してデータを整理し、報告しました。

1年間の活動報告

- ① マンション住民調査班：表町商店街周辺に立地するマンション住民の方を対象としたアンケートを実施し、商店街とその他の岡山市内の主要商業施設の利用頻度と、都市環境に関する満足度や意見を聞きました。住民の方が商店街の現状に高い関心を持っていることが分かりました。
- ② 空き店舗・店主様アンケート班：昨年度から引き続き、表町商店街の店主様に向けたアンケートを行い、その回答を分析しました。また、表町商店街の空き店舗についても調査し、商店街全体の空き店舗数を求め、以前の結果と比較しました。
- ③ AI・行動観察班：まず「ウォーカビリティ（歩きやすさ）」指標や、岡山市のAIカメラデータの二次分析を実施しました。ウォーカビリティの表町商店街の数値は比較的高く、歩きやすい環境であると分かりました。また、商店街エリア内の歩行者数の偏在の実態が分かりました。以上を踏まえ、現地での行動観察調査を行った結果、時間帯やエリアによる人々の行動パターンの違いも明らかになりました。

活動成果

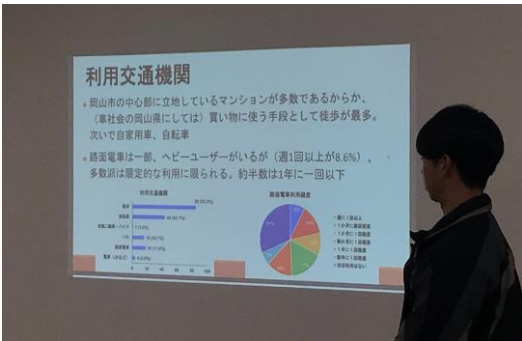
各調査から得たデータを基に、以下の見解を導きました。

- ・店舗側が魅力と考える情報の一方的な発信ではなく、住民のニーズを把握した情報の提供の重要性。
- ・客観的にも、店主の方々の意識としても、喫緊の課題となっているのが空き店舗が増加する現状であること。
- ・エリアごとの通行人の行動パターンと人数の違いに即した施策の必要性。

以上を資料にまとめ、商店街の関係者の方にお越しいただき、最終報告会を実施しました。

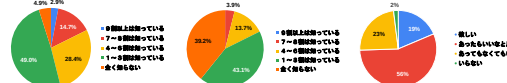


行動観察調査

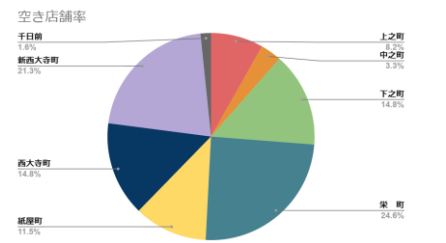


認知度と情報

- 約半数が、3〜4割以上の表町商店街の店舗を知っていると回答
- 一方、表町商店街のイベントの認知は3〜4割以上の認知がある人は2割弱に限られる
- 店舗情報の希望は約4人に3人が好意的（「欲しい」）

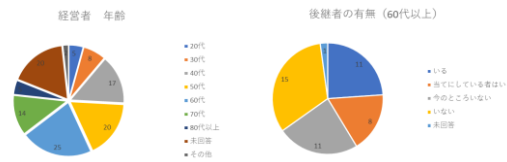
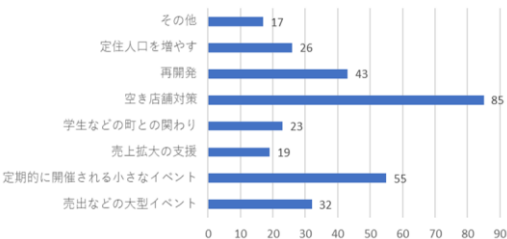


マンション住民調査

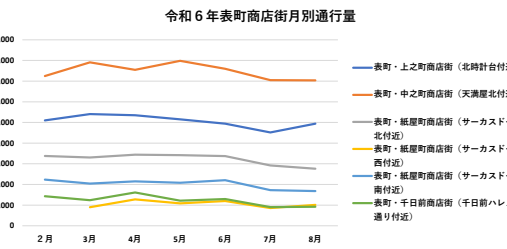


空き店舗調査

表町商店街の活性化に必要な物（複数回答可）



店主様アンケート調査



AIカメラデータの分析結果

担当教員：横山 ひとみ ポスター制作：①太田 晃樹, 天納 隆希, 横山 大輝
塚常 健太 ②田中 想, 中山 浩貴, 瀬口 智哉, 海野 裕風
（所属学生12名） ③小松原 哉汰, 茶納 優真, 丸口 綾太, 宮本海惟, 星野 稜太